

Economic Indicators

発表日: 2021年12月16日(木)

貿易統計(2021年11月)

～自動車を中心に輸出が持ち直し～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				輸出金額	輸入金額								
20年	11月	3,259	7,209	▲4.2	▲10.5	▲3.8	▲2.6	▲7.2	▲4.0	▲2.0	▲19.1	▲12.7	4.7
	12月	7,083	7,180	2.0	▲10.9	0.1	▲3.3	▲8.0	5.4	▲1.9	▲22.8	▲1.1	2.3
21年	1月	▲3,272	5,817	6.4	▲9.5	5.4	▲8.7	▲26.5	18.4	▲4.1	▲10.5	▲10.9	▲2.9
	2月	2,117	169	▲4.5	11.8	▲4.4	▲16.4	▲24.2	▲0.2	21.9	▲7.9	1.6	43.8
	3月	6,578	3,139	16.1	5.7	12.6	3.9	▲7.2	20.4	3.8	▲0.7	9.0	8.4
	4月	2,488	880	38.0	12.7	28.5	37.8	13.4	23.0	1.1	▲4.8	5.2	4.4
	5月	▲1,934	▲131	49.6	27.7	38.5	77.6	37.9	21.6	6.8	5.0	23.3	7.1
	6月	3,789	▲1,624	48.6	32.5	37.2	79.7	25.0	26.1	8.2	9.1	27.0	8.7
	7月	4,358	▲275	37.0	28.1	25.2	19.4	38.9	20.4	2.0	2.3	▲0.6	4.5
	8月	▲6,431	▲3,155	26.2	44.5	13.7	13.2	29.2	11.1	14.4	12.8	28.2	13.1
	9月	▲6,296	▲6,033	13.0	38.3	3.3	▲9.8	15.3	8.9	7.4	16.9	6.1	6.6
	10月	▲685	▲4,183	9.4	26.7	▲2.6	▲8.2	5.2	▲0.1	▲3.0	2.0	2.3	▲4.4
	11月	▲9,548	▲4,868	20.5	43.8	4.7	▲2.8	10.8	5.5	6.1	17.1	24.2	2.0

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○自動車輸出が前年比増加に転じ、輸出全体も持ち直しがみられる

財務省より発表された10月の貿易統計によると、貿易収支は▲9,548億円の赤字(コンセンサス: ▲5,952億円、レンジ: ▲9,111億円～▲680億円)となり、4カ月連続の赤字となった。輸出金額は前年比+20.5%(コンセンサス: +21.2%、レンジ: +15.6%～+24.7%)、輸入金額は同+43.8%(コンセンサス: +40.0%、レンジ: +31.0%～+46.2%)となった。部品調達難による大幅減産を背景に低迷していた自動車輸出が、10月は前年比+4.1%(10月▲36.7%)と3カ月ぶりに前年比プラスへ復帰したことで、輸出全体も回復がみられた。その一方で、輸入は原油価格の高騰を反映して前年比の伸びが高止まりする状況が続く、貿易収支は赤字での推移が続いている。

季節調整値では、輸出金額が前月比+5.3%、輸入金額が同+5.9%となり、貿易収支は▲4,868億円の赤字となった。

○実質輸出も、自動車輸出の回復が牽引

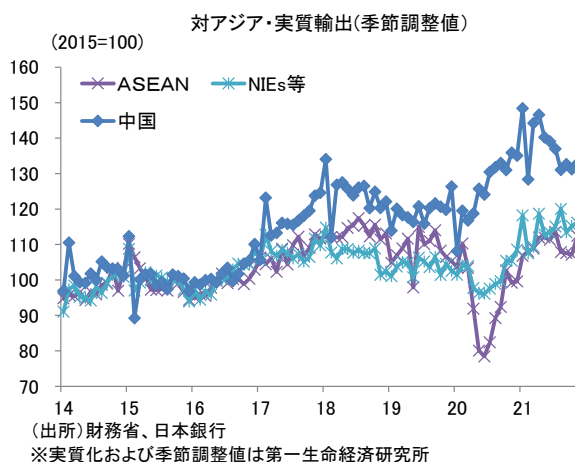
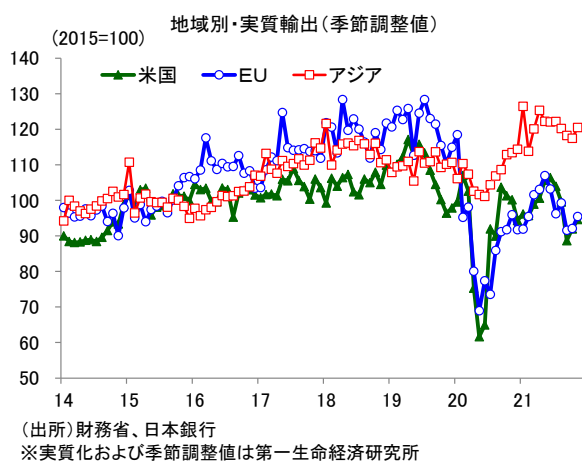
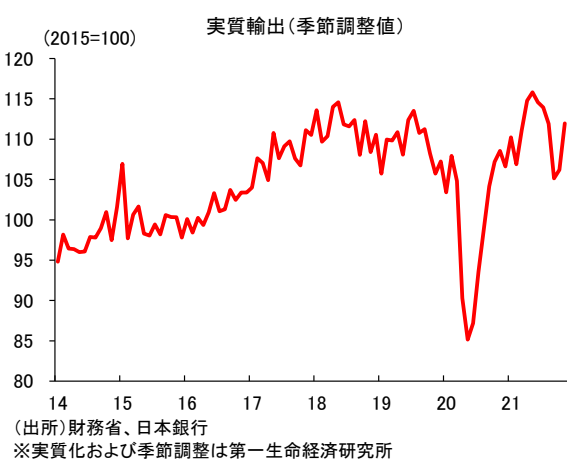
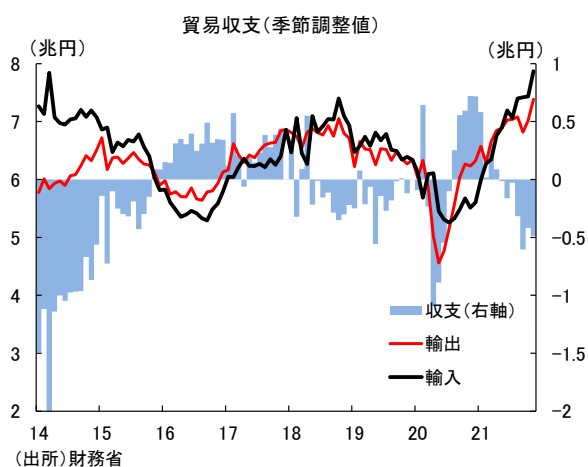
為替などの価格変動の影響を除いた11月の実質輸出は、前月比+5.4%(10月: 同+1.0%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)と大幅に増加した。部品調達難が和らいだことで自動車輸出が増加し、輸出全体でも持ち直しがみられる。もっとも、実質輸出は7-9月期に▲4.1%と大きく落ち込んだ後、10-11月平均は7-9月期から▲1.1%の減少となっており、夏場の落ち込みを取り戻すには至っていない。

前月比について国・地域別にみると、米国向けが前月比+2.9%、EU向けが同+3.7%、アジア向けが同+2.6%、アジア向けのうち中国向けが同+1.2%となった。すべての地域で輸送用機器の回復が牽引して前月比でプラスとなった。米国向けについては、輸送用機器が前月比+31.9%もの回復となった一方で、その他の品目での減少が目立った。これまで堅調に推移をしてきた一般機器（前月比▲1.2%）や電気機器（前月比▲0.8%）といった資本財に、このところ頭打ち感がみられる。

○感染動向による不透明感が強まるものの、当面は赤字幅が縮小へ

11月の貿易収支は、自動車輸出の回復がみられたものの、輸入の高止まりにより赤字が続いた。自動車メーカーの計画では、12月以降も自動車生産の回復が見込まれており、計画通りに生産が続けば自動車輸出も回復基調が続くだろう。もっとも、オミクロン株をはじめ世界的な感染拡大が続いており、世界経済の不透明感が強まっている。年明け以降の減産リスクが懸念材料だ。

輸入については、年明け以降は伸びが鈍化する見込み。10月以降80ドル前後での高値推移が続いていたドバイ価格は、オミクロン株の登場によって12月頭に一時68ドルまで急速に下落した。その後は持ち直しがみられ、70ドル台前半での推移が続いている。この動きを反映して、年明け以降の輸入物価の上昇は鈍化する可能性が高い。今後は輸出が持ち直すことで、貿易収支は赤字幅の縮小に向かうだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。